4 月 15 日（土）サポーター説明会議事録

日時　：2023 年 4 月 15 日（土）9:00～10:15
場所　：横浜市三ツ沢公園青少年野外活動センター 1F ホール
出席者：ファン・サポーター　38 名
　　横浜 FC　木村、北澤、杉尾、松本、笠井、山下　　敬称略

■議題

・2022 年 10 月より進めてきた一連の取り組みと現状の説明
・4 月 15 日（土）広島戦より実施する件についての説明

■目的の説明

三ツ沢を常に満員にし、クラブカラー（HAMABLUE）に染まったスタジアムを目指す。
上記の実現に向けた必須項目として２点をクラブから提示した。

①安心安全なスタジアムづくりの推進
②応援の中心となるゴール裏応援団体との協力体制の構築

その上で以下 3 点を 2023 シーズンより導入した。

１．オフィシャル応援エリアの設置
２．すべての掲出物の事前申請/可否基準の設定
３．応援を先導する団体または個人の登録

■背景

ゴール裏応援団に限らず、その他のサポーターの方々にも該当する件として、以下のような事案が複数みられた。また一部のファン・サポーターやパートナー企業からも改善を求める声がクラブに届いていた。

・相手クラブや自チームの選手を侮辱する発言等
・試合運営管理規程で禁止となっている掲出物の掲出や持ち込み
・サポーター間でのトラブルに繋がる行為
・コロナ禍で禁止されていた声出しやアルコール類の持ち込みなどの度重なるルール違反
・クラブスタッフからの再三の注意に対して改善が見られないこと
・クラブスタッフの注意に対して挑発する行為
・その他、入場禁止処分の対応に至る事案

上記背景の中で、ビジョンの実現を目指すうえで、現状の改善が必要であると強く考え今回の取り組みに至った。

■経過

上記の目的と背景を持つものの、クラブとして反省すべき点があった。

・性急すぎた進め方に問題があった。
・ファン・サポーターの想いに対する理解や寄り添う姿勢が不足していた。
・一つ一つの取り組みに対し、想定し得るリスクやリアクションに対して、充分な質を担保した回答。

応援の中心となるゴール裏団体との話し合いを経て、以下を変更。

・オフィシャル応援エリアにおける HAMABLUE カラーの着用条件を推奨に変更(2/16 発表)
・クラブで定めた掲出物における判断基準の変更(4/12 発表)

■4 月 15 日（土）（ミーティング当日）より掲出物を掲示

これまでファン・サポーターの皆様やパートナー企業から意見があったデザインやトラブルに繋がる可能性があると判断したデザインを掲出不可としており、ゴール裏応援団体との話し合いが続いていた。

・ゴール裏応援団体の意向

クラブからの突然のルール変更によって、これまでの応援の歴史も否定されているようであり今回の進め方には納得できないため、クラブが目指すスタジアムの状態（J1 昇格を決めた 2019 年最終節の愛媛戦の状態）をゼロとして、すべての掲出物を掲出し周りの方々からの意見も聴きながら、一つ一つ話し合いをさせてほしい。

・クラブの意向

上記のゴール裏応援団体の意向を受けて、クラブ内で何度も協議を実施。
クラブとしては①安心安全なスタジアムづくり②クラブとゴール裏応援団体との協力体制の構築の２つは絶対に譲れない部分であるとした前提で話し合いを進め、ゴール裏応援団体からはルール・マナーの遵守、クラブとゴール裏応援団体との協力体制について前向きに行っていくという回答をいただいた。
また、団体登録をしていただくことで、各団体の責任者が明確になり、今後もクラブと明確に対話できる状態となったことで、4 月 15 日（土）広島戦から掲出物の判断基準の変更を行い、すべての掲出物の掲出を可とした。
（事前申請制は継続）

■今後について

試合後に実施しているアンケートなどで、ファン・サポーターの皆様からの意見も幅広く聞いた上で慎重に議論を重ね、改めて状況を把握し、よりよい形を目指す。

4 月 15 日(土)広島戦からゴール裏応援 3 団体より、団体登録をいただいたため、オフィシャル応援エリアの在り方、応援の中心となりスタジアム全体の雰囲気を創り上げていくための様々な施策やアイディア、改善点など含めてクラブと応援団体との間で協議をし、都度応援団体以外のファン・サポーターの皆様にも必要に応じて情報開示を行う。
「安心安全なスタジアムづくりの推進」と「応援の中心となるゴール裏応援団体との協力体制の構築」を推進し、常に満員でクラブカラー（HAMABLUE）に染まったスタジアムを目指していく。

※以下、当日の質疑応答の内容です。

■質疑応答

Q. クラブの目指している安心安全なスタジアムとは。
クラブが具体的にこうしたいというものが見えてこず、掲出物などとどうリンクしていくのかが見えてこない。

A. マナーの改善を最優先に、その他に J リーグの試合運営管理規定を踏まえたスタジアム運営を目指している。

Q. 本日掲出するものは承認が下りた認識でよいのか。
またクラブの判断基準は無くなったのか。まだ線引きが残っているのか。

A. 事前申請制の継続は変わらない。本日掲出されるものも事前申請されたもの。
判断基準は J リーグが定めている試合運営管理規程に基づくものに変更している。

Q. クラブが定めたローカルルールは J リーグのルールよりも厳しく設定されたのか。
具体的にはどこが違うポイントになるのか。

A. クラブのルールは J リーグのルールよりも厳しい設定になっていた。J リーグのルールの中で「応援と認められないもの」など抽象的な表現の基準がある中で、ゴール裏のマナー違反と掲出物のイメージ（幕に対する恐怖心や黒色）が紐づいて来場者からご意見が出てきていたことから、J リーグの定めるルールよりも拡大して解釈をした厳しいルール設定としていた。その点は先に話したようにサポーターの想いに寄り添い、理解する姿勢が足りていなかった点であると考えている。

Q. 試合後アンケートについては、クラブメンバーとそれ以外の人でどれくらいの割合に
なっているのか。

A. 今シーズンのアンケートに限っては 8 割クラブメンバーの方の回答。

Q. ゴール裏以外で、バックスタンドのマナー違反（コロナ禍での声出しなど）に対する考えは。改善されていないと感じるが。

A. ルール、マナーを守っていただくということはスタジアム全体の話であり、2020 年からは試合中スタジアム全体にクラブスタッフを配置して注意などをおこなっているが、これからも引き続き改善が必要だと認識している。メインスタンド、バックスタンド含め、スタジアム全体として一緒に改善していく必要があると認識している。

Q. 今シーズンの幕や旗のないゴール裏の状況に対するアンケートの回答内容は。
A. アウェイのチームに比べて寂しいという意見ももちろんある。HAMABLUE のカラーに少しずつ変わってきているという声もあり、賛否両論様々な回答がある。

Q. オフィシャル応援エリアの設置と、団体の協力に関してはどういう認識をしているのか。また、今後クラブとしてどうしていきたいと考えているのか知りたい。
A. オフィシャル応援エリアの応援を先導するエリアは団体または個人登録を必要としており、既存 3 つの応援団体からも今日の広島戦より団体登録をいただいた。
そして、クラブが求める「安心安全なスタジアムづくり」と「協力体制の構築」ということが団体登録の前提としてあるため、話し合いながら、一緒にスタジアムを作り上げたいと考えている。

Q. 今までの全ての動きは観客動員数を増やす目的だと思うが、なぜ動員数を増やしたいのか端的に回答してほしい。新スタジアムの建設にあたり多大な税金が投入されるという報道もあるが、それに対して満員にできない事への危機感もあって観客動員数を増やしたいという面もあるのか。
A. チーム強化と事業面の両輪を強化していく必要があり、J 1 定着、そしてその先にあるタイトル獲得を目指すためには観客動員数を増やしていく必要がある。
まずは三ツ沢の 15000 人を満員にすることが必要。その前の段階で複数回、満員にできる試合をつくっていく必要がある。
横浜 FC はパートナー企業からの広告料収入がクラブ全体の売上のうち 40%以上を占めていて、入場料収入は 10%程度となっているのが現状。広告料収入に大きく依存している中で、例えばコロナ等も含めてパートナー企業の業績が悪化し契約の継続が困難になることで、外的な要因でクラブが揺らいでしまうリスクもあることを考えると、しっかりと入場料収入を伸ばして事業体力を強化する必要があると考えている。

Q. 理想としている 2019 年のホーム最終節が盛り上がった要因は何だと分析しているか。
A. J 1 昇格へのストーリーと J 1 昇格に向けた協力体制ができていたことが大きい。ただし、あの姿が最終ゴールではないし、クラブとして反省と改善をし、当時の姿よりももっと大きなものを作ることを目指してやっていく。

Q. 本日事前申請をしていない幕は却下となるのか。
A. クラブスタッフが場外総合案内所などで確認のうえ、本日は柔軟に対応する。

Q. いつまでに今回の取り組みを形にしようとしているのか。これまで打ち出してきたことに対して、クラブは随分譲歩したと感じている。ゴール裏にクラブが譲歩しすぎて今後話し合いになるのか。クラブとして、ここまでは譲れないといった部分はあるのか。

A. 譲れない部分は「安心安全なスタジアムづくり」「ゴール裏応援団体との協力体制の構築」この２つは譲れない部分である。

※補足として、クラブが譲歩し、ゴール裏が勝ったといったことではなく、これを機会と捉えてお互い協力し目指すビジョンに向かっていきたい。

Q. いつまでにクラブがどうしていくのかを一部分に対してではなく、ビジョンとして打ち出していかなければなあなあになってしまうのではないか。

A. 必要だと考えている。

Q. アンケートの回答でマナーに関するネガティブな意見が 2000 件のうち 300 件というのは少ないと思う。

A. アンケートの内訳にはいろいろな項目があるが、今回出ている 300 件は自由記述の中での件数となっているため、クラブとしては少ない数字だと考えていない。

Q. 昨季から進めてきた取り組みについて、クラブではどのように評価しているか。

A. 進め方を急ぎ過ぎていたことは反省しているが、クラブが目指しやっていきたところは変わらない部分なので引き続きやっていく。

Q. アンケートの回答についてどのくらいのモニタリング期間を設けるのか。

A. 回答のパーセンテージ数値だけでの判断だけではなく、回答の継続性などもあるため、回答内容に対して皆さまと話し合いをしながら適切な対応をしていく。

Q. 安心安全なスタジアムづくりという点で、ホームもアウェイも関係無いのではないか。
今回はホーム側のみの規制でアウェイは規制対象外で歪に感じた。
今後アウェイ側への対応は具体的にどうするのか。

A. スタジアム全体の話なので、アウェイのサポーターの管理責任はアウェイのクラブにも
関係してくるので、対戦相手のクラブとしっかりと具体的に話をしていきたい。

Q. まずホームのクラブを正してから、アウェイのクラブを正していくのか。同時進行していきたいと考えているのか。

A. ファン・サポーターの意見がどこに向けられているのかが重要となり、今後のアンケート回答内容も踏まえ対応する。アウェイ側に対しては、できる範囲とできない範囲があるため見極めて対応する。
マナーなど試合運営管理規程に基づくルールはホームもアウェイも統一で各クラブの責任となる。今回のドクロを規制するなどルールを設けることによって生じる歪な部分は取り止めているのでホームとアウェイも変わらない状態になる。アンケートによって、今後改善が必要なものについては相談していく

が、ルールを作って押し付けるというコミュニケーションは無いという話を先日のゴール裏団体との話の中でもさせていただいた。
マナーについては、お互いの運営責任のもとつくっていく。

Q. サポーター同士の意見交換会の実施について開催する予定はあるのか。
A. ファン・サポーターを増やすため、応援の雰囲気をつくっていくために必要。しっかり時間を取れるタイミングで 5 月に開催を検討している状況。

Q. みんな、チームや選手を応援したくてスタジアムにきていると思うが、選手からゴール裏に対する意見はあったのか。
A. そういう声はあった。ふがいない試合をした際の厳しい声があるのは理解している。
選手に対する侮辱などがあった場合は、当時サポーターの窓口の方にお伝えしていたがなかなか改善されなかった。これまでも元所属していた選手がマナーに対してメッセージをしたこともあったため、コミュニケーションをとりながら、進めていきたい。

■ご意見
ご意見）
安心安全なスタジアムづくりにおける「マナー」とは何をもって言っているのか。
団体だけではなく、スタジアム全体で見えていない色んな問題がある中でもっと明確化し、具体的にしていかないといけないと思う。

ご意見）
今回初めてクラブの本音が聞けたと思っており、今まではクラブの理想郷で話を進めていたと感じており、スタンドを青くすることとマナー改善は結びつかずそれが分かりづらくしている。マナー改善の概念を明確して具体的に取り組みを進めていくべきではないか。

ご意見）HAMABLUE シート最前列、メインのホームエリアにアウェイグッズを身に着けているサポーターがいることについても対応いただきたい。

ご意見）組織的にやれておらず、物事を建設的に進めて欲しい。団体競技なのだから未来を見据えてゴール裏とフロントは協力してやっていくべき。徐々にサポーターもまとまってきているのでゴール裏も尊重してやって欲しい。

以上